

2015

建築学科

武蔵野美術大学

全員が設計する、デザインする

MMU



建築学科について



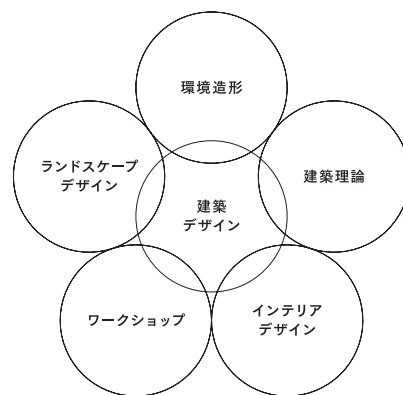
住宅から都市環境、
アートまで、人の営みを
建築の視点から考える

建築には、良質な環境をつくり、人びとの活動を支え、居場所をつくる役割があります。室内、建物、町、都市、地域……という特徴をもった環境は、互いに関係し合っています。建築はその関係し合う全体です。身近に、永く存在する建築は、人が生きる社会の仕組み、価値観を語る存在です。建築行為は、その社会の仕組みに働きかけ、新たな価値を創造する行為です。

建築学科では、環境や社会的目的の視点からと同時に、美的価値を含めた価値の表象として、建築の探求、創造をめざします。学生たちは、美術大学という環境から創造の刺激を受け、美術・デザインの基礎教育を学び、総合科目や工学技術を含む専門科目で学んだ見方・知識・方法を集約、統合するものとして建築デザインを学びます。3年次からは、住宅、建築、環境、空間、インテリア、ランドスケープそしてアートまで多様なスタジオで興味を深めます。

建築学科で学べる領域

建築学科で学ぶことは、単に建物を造るだけの技やデザインではありません。人がその一生をかけて体験するすべての環境が、私たちの学びの対象になります。



ムサビケンテクの“今”

地域コミュニティづくりに実践的に関わるプロジェクトが建築やアート、ランドスケープの領域を横断して行われています。

〈学外とのコラボレーション事例〉JR中央ラインモール計画／アートサイト八郷／愛知県 額田天使の森アートプロジェクト／太田駅北口駅前文化交流施設ワークショップ／神楽坂プロジェクト／笠間の菊まつりプロジェクト／近代化産業遺産愛岐トンネルプロジェクト／高知県 佐川町プロジェクト／黄金町高架下スタジオ Site-C／徳島県 勝浦川環境アートプロジェクト／陸前高田市今泉地区移転計画プロジェクト



3年次以降のスタジオ制教育

3年生以降の設計演習とゼミはスタジオ単位でおこなわれます。特色ある8つのスタジオから選択し、自分自身の適性とやりたいことを探っていきます。共感できる領域に軸足を置き、友人との違いを確認しながら、社会へと目を向けていく場にもなります。

4年次は所属スタジオをホームページとして、卒業制作や進路の決定に臨みます。

※「」内は2014年度各スタジオのテーマ例



布施スタジオ

布施茂 | 主任教授
「建築空間の形式と可能性」



長尾スタジオ

長尾重武 | 教授
「地域連携、アートサイトづくり」



源スタジオ

源愛日児 | 教授
「モノからの建築デザイン」



鈴木スタジオ

鈴木明 | 教授
「身の丈の家」



高橋スタジオ

高橋晶子 | 教授
「社会と場所の関係から」



菊地スタジオ

菊地宏 | 准教授
「地形と建築の新たな関係」



長谷川スタジオ

長谷川浩己 | 教授
「ランドスケープデザイン」



土屋スタジオ

土屋公雄 | 客員教授
「環境造形、アートの視点から」

年間イベント

学内・学外のたくさんの方に作品を見ていただくために、プレゼンテーションの場を多数設けています。

6月・8月：オープンキャンパス

7月：パーティカルレビュー夏
(前期課題作品選抜講評会)

10月：芸術祭
(有志による展示が行われます)

12月：パーティカルレビュー冬
(後期課題作品選抜講評会)

1月：建築祭
(卒業制作講評会)



カリキュラム

豊かな創造性を育むカリキュラム

本学科の教育の大きな軸となっているのは、4年間必修の「設計計画」。「計画＝planning」と「設計＝design」を分けることなく、トータルな表現として建築に取り組むための制作課題です。講義で身につけた知識・技術をデザインに集約させることができます。また、一級建築士、二級建築士、木造建築士の受験に必要な指定科目が開設されています。

M

大学院では、専門領域、建築理論・方法を異にする教授が開くスタジオを選択し、将来、建築家、デザイナー、アーティスト、研究者として活動するための制作、研究の核心となる考え方、方法を探求します。

1

1年生では建築に取り組む下地づくりとして、絵画、彫刻、デザインの他分野を広く学びながら、造形力・表現力の基礎を身につけていきます。設計計画では、課題を通していよいよ実際の建物の設計に入ります。

設計計画

I

建築を学ぶ導入部として、建築設計を表現する技法の習得を目指します。

- ・建築設計基礎
- ・建築設計表現
- ・図学
- ・基礎数学
- ・構造力学基礎
- ・構造デザイン

2

2年生では専門課程のさまざまな講義科目が開講されており、建築ができるまでに必要な知識を学ぶことができます。専門的な授業によってより深く建築に触れ、自分が興味のあることがだんだんわかってきます。

設計計画

II

造形としての側面に加えて、技術、性能や生活、文化などについて学んでいきます。住宅の他に複合的・公共的な機能をもった課題にも取り組みます。

建築の専門を学ぶ

- ・建築計画
- ・計画原論
- ・建築形態論
- ・建築構法
- ・構造力学
- ・応用数学
- ・建築材料学・実験

造形・環境を学ぶ

- ・環境計画 / Environment Planning
- ・基礎造形
- ・造形演習
- ・写真表現

3

3年生ではスタジオに分かれ、より本格的な制作がはじまります。建築デザイン、環境造形、ランドスケープデザインとスタジオごとに課題もさまざまで、自分の個性を発揮できるチャンスとなります。

設計計画

III

担当教員が独自のテーマをもつスタジオから前後期で2スタジオを選択します。多岐にわたる分野の中から課題を通して自分自身のテーマを模索し、発見することを目指します。

- ・建築意匠
- ・建築概論
- ・建築デザイン論
- ・建築施工
- ・建築法規
- ・建築設備・実験

- ・都市デザイン
- ・ランドスケープデザイン概論
- ・庭園史

4

4年生では8人の先生の中から1年間を通して所属するスタジオを選び、ものづくりを通して友達や先生ともより深く関わります。なかでも卒業制作は最大のイベントで、4年間の集大成としてベストを尽くし臨みます。

設計計画

IV

社会における建築設計を意識したテーマが設定され、各自が今後、建築とどのように関わっていくかを考えながら課題を実践していきます。

卒業研究・制作

卒業制作ではスタジオに分かれて、自身の関心をまず卒業研究にまとめます。本学科では、いわゆる研究のほかに、制作過程の試行錯誤をまとめた制作ノートも卒業研究の一つと捉えています。この卒業研究を足がかりに、これまで蓄積した思考やデザインの力を展開し、4年間で集大成する表現として卒業制作があります。

建築学科卒業生からのメッセージ



小嶋はるか
保存修復
(財)文化財建造物保存技術協会

設計課題を考えながら、気づくといつも伝統的な建築にヒントを得ていました。大学の古美術研究旅行を通して、他学科の友人達と交流を深めたこともムサビならではです。そのなかで、白紙状態から新しくデザインするより、既存のものを生かす仕事をしたいと思うようになり、この分野で活躍されている学科先輩方を各地に訪ねて、就職にこぎつけました。卒業制作は、前川國男設計の神奈川県立図書館を保存・再生分野の研修施設に改修する案でしたが、それまでの迷いを払拭し、集大成できたと思います。



1974年東京都生まれ。本学科卒業後（公財）文化財建造物保存技術協会入会。重要文化財の太田家住宅、平井家住宅、坂野家住宅、歓喜院聖天堂他の保存修理に携わる。文化財建造物修理主任技術者。一級建築士。（左：「坂野家住宅《茨城県、江戸中期》」）



大島芳彦
建築家
ブルースタジオ

これからの時代、新築する建設業界の著しい縮小は避けられないと思います。一方で既存建物の利用方法に関しては無限の手法が秘められています。僕らの考えるリノベーションとは単なるものの再生ではなく、そのものの社会的な位置づけを再解釈し構築し直す事です。ムサビにいたからこそ経験した「建築とアートの違い」に関する仲間との議論や、ボロ家をシェアする生活から学んだ自らの生活そのものを積極的に編集する感覚が、今の「建築」の定義を自由に解釈するようになったきっかけだと思います。



1970年東京都生まれ。本学科卒業後、SCI-Arc、Bartlett、石本建築事務所を経て、2000年ブルースタジオ一級建築士事務所取締役就任。建物再生のコンサルティング、設計を主に手がける。主な作品に「ラティス青山」「ラティス芝浦」など。グッドデザイン賞、日本不動産学会業績賞、JCDデザイン賞、BELCA賞など受賞。（左：「ラティス青山」）



柴田直美
編集デザイナー・キュレーター

大学で学んだことは、すぐに社会に出て役に立つというものではなく、むしろ社会に出てからいろいろなことを吸収するための下地づくりだったと思います。同級生や他学科学生との交流から得るものも多かったし、何かをつくり出して表現することを心から楽しめた経験が、今も仕事をする時のモチベーションになっています。



1975年愛知県生まれ。本学科卒業後、99～2006年建築雑誌「エーアンドユー」編集部。06～07年文化庁新進芸術家海外研修制度によりオランダにてグラフィックデザイナーとして研修。以降、編集デザイン・キュレーションを中心に活動。（左：「Architecture as a Piece of Nature」）



井手孝太郎
建築家
アールテクニク

何しろ学校が好きだった。建築学科と食堂の間に在った魅力あふれる他学科の工房群と友人たち、プラスチック工房、陶磁工房、木工房、石彫場が僕の居場所だった。現在、家具はもちろん浴槽・照明・取手にいたるまでオリジナルで制作する。家具工場に通ってディテールを探り、FRP工房で浴槽の原型を自分で削らせてもらったり、鋳造部品のWAX原型を自分たちで制作したりする。これは美大という環境で養った実在の材料への感覚と、現場でモノを覚える感覚の賜物だと思う。



1965年東京都生まれ。本学科卒業後、横河設計工房を経て、94年アールテクニク一級建築士事務所設立。住宅、インテリア、家具まで幅広く手がける。主な作品に「Shell」「Fenton」など。竹山実賞など受賞。（左：「SHELL」）



酒向昇
建築家
竹中工務店

課題やコンペ、校内外の同世代交流、設計事務所でのアルバイトといったムサビの生活は、“建築とは何か、目指すべき建築家とは何か”を見つけるための時間でした。先生方は自身の生き様を見せることで人生を考える契機を与えてくれ、その中で、私はゼネコン設計部という企業のインハウスデザイナーを選択しました。ビル設計は、自らのコンセプトやデザインを多くの関係者にプレゼンテーションすることに明け暮れます。学生時代身に付けた思考方法や表現能力、ムサビでの4年間の訓練がまさに今に繋がっています。



1965年東京都生まれ。本学大学院造形研究科修了後、89年(株)竹中工務店入社。現在同社設計部課長。主な作品に「東京サンケイビル」「芝公園フロントタワー」など。日本建築学会作品選奨、グッドデザイン賞など受賞。（左：「神谷町サンケイビル」）



小松宏誠
アーティスト
アトリエオモヤ

大学時代、建築学科というより美術大学という少し大まかな枠で自分を捉えていました。その方が僕には楽しかったし、刺激的。自分の立ち位置もつかめる気がしていました。興味ある事に割と簡単に近づく事ができるので、とにかく自分の好奇心に任せているんな事を体験しました。自然とやりたい事が見つかり、今も夢中になっています。



1980年徳島県生まれ。本学科卒業後、東京藝術大学大学院。主な展覧会に「no man's land」など。文化庁メディア芸術祭審査員推薦作品、NHKデジスタベストセレクションなど。現象のもつ魅力とテクノロジーを融合させた作品は、世界的に高い評価を得ている。（左：「secret garden」）

建築学科についてのQ&A

○入学前の心構えについて

Q：工学部建築学科との違いはありますか？
A：美大建築学科として、絵画、彫刻、デザインなどの実習科目が充実しています。一方で構造力学、建築設備・実験、建築材料学・実験など建築を学ぶうえで必要な工学技術に関する科目もしっかりと開設。学んだ全てを学科の中心科目である「設計計画」（建築デザインの演習）に集約して生かすことを重視しています。

Q：数学や物理などの理数系科目が苦手ですが大丈夫ですか？
A：高校の数学や物理（力学）で教わる内容を講義、演習する基礎数学、構造力学基礎という科目を用意しています。また、構造デザインという科目では、模型実験で体感しながら建築の構造を学びます。

Q：絵を描いたりするのが不得意ですがやはり芸術的素養は必要ですか？
A：絵画、彫刻、デザインを1年生で学び、感動を表現する手法を習得します。現代美術作品の背後にある思考、感性に触れて創造への刺激を受ける基礎造形という科目も開設しています。建築のスケッチは、たくさん描いているうちに次第に上手になります。

○建築学科の授業について

Q：設計製図に関心がありますがどんな勉強をするのですか？
A：1年生では有名な住宅作品の図面や公共建築の図面を手本にして製図法を学びます。空間構成や建築計画、建築図面の表現法もあわせて習得し、その応用として設計のトレーニングに入ります。2年生からは、住宅、集合住宅、コミュニティ施設などの設計課題を通して、徐々に規模の大きな、複合的な建築のデザインに取り組みます。

Q：CADやコンピュータの初心者なのですが大丈夫でしょうか？
A：建築設計表現という授業の中にCAD（computer aided design）の演習科目があり、そこで勉強できます。ツールは自ら積極的に使って、慣れることが大切。また、同級生と一緒に表現技術を情報交換しながら学ぶのが早道です。

Q：指導を担当する先生方はどのような人ですか？
A：設計計画という科目は、多くの建築家が担当しています。また、ランドスケープデザイナー、アーティストの指導する設計課題もあります。工房実習や写真表現はそれぞれの専門家が担当し、構造設計や設備設計などの講義科目も主に実務経験者が受けもっています。

○キャンパスライフについて

Q：他学科の授業は履修できますか？
A：他学科の実習科目を履修することはできませんが、造形総合科目という科目で、他学科の先生方が担当する実習科目を履修することができます。

Q：アルバイトはできますか？
A：在校生は建築設計事務所（勉強目的の場合、将来の就職のための場合）でのアルバイト、学内の臨時アルバイト、近隣地域でのアルバイトなどを行っています。

Q：奨学金はありますか？
A：本学独自の奨学金制度や日本学生支援機構の奨学金制度のほかに、民間団体の主宰する奨学金制度などがあります。

Q：留学はできますか？
A：本学と協定留学制度を結ぶ大学へ、本学を休学せずに、1年間留学する制度が設けられています。本学科を卒業後、留学する例も少なくありません。

主な就職先

青木淳建築計画事務所／昭島市役所／石上純也建築設計事務所／イリア／NHK／遠藤照明／王子不動産／大林組／岡村製作所／オンサイト計画設計事務所／鹿島建設／ケイ・ウノ／劇団四季／鴻池組／コクヨ／小林工芸社／JR東日本都市開発／清水建設／スペース／住友林業／積水ハウス／大成建設／大和小田急建設／大和ハウス工業／高島屋スペースクリエイツ／タカラスペースデザイン／竹内デザイン／丹青社／永山祐子建築設計／日建設計／日本設計／fuse-atelier／ブルースタジオ／横総合計画事務所／ミサワホーム／三井ホーム／森ビル／ランドブレイン／ワークステーション

主な進学先

武蔵野美術大学大学院／東京大学大学院／東京工業大学大学院／東京藝術大学大学院／筑波大学大学院／横浜国立大学大学院／千葉大学大学院／早稲田大学大学院／慶應義塾大学大学院／明治大学大学院／海外大学院

学部卒業後に取得可能な資格

- ・一級建築士受験資格（2年以上の実務経験が必要となります）
 - ・二級建築士受験資格（実務経験の必要はありません）
 - ・木造建築士受験資格（実務経験の必要はありません）
 - ・学芸員（別途、科目履修が必要となります）
- ※大学院は一級建築士受験資格要件に対応しています。大学院で開講している科目の単位修得数により、一級建築士試験の大学院における実務経験年数1年または2年が認定されます。詳しくは建築学科ホームページで確認または研究室にお問い合わせください。
※本学科には教職課程は設置されていません。

近年の学生・卒業生の活躍

- 2014年
- ・35歳以下の新人建築家による建築の展覧会 出展／伊藤友紀
 - ・第14回卒業設計コンクール 入賞／荒井卓
- 2013年
- ・日本建築学会賞 文化賞／遠藤信行
 - ・第13回卒業設計コンクール 優秀賞／田中裕大 審査員特別賞／佐藤仁美
 - さいたま住宅検査センター賞／高井志帆
- 2012年
- ・Tokyo Midtown Award 2012 アートコンペ部門 グランプリ／太田遼
 - ・第1回平成建設学生設計提案競技 奨励賞／山下真一郎・田中裕大
 - ・木愛の会 第二回設計競技「間伐材丸太による小建築」入賞／村上毅晃
 - ・震災に備えるアイデア募集 優秀賞／佐藤有記
- 2011年まで（一部）
- ・SDレビュー
 - 2010年：SD賞／小名秀幸 入選／岩岡竜夫
 - 2009年：入選／増田信吾
 - 2008年：入選／増田信吾・島田雄太

武蔵野美術大学 建築学科研究室
〒187-8505 東京都小平市小川町 1-736
電話：042-342-6067
ファックス：042-344-1599
Eメール：arc@musabi.ac.jp
ホームページ：http://www.arc.musabi.ac.jp

企画：武蔵野美術大学建築学科研究室
アートディレクション・デザイン：橋詰宗
撮影：村松聡、いしかわみちこ、藤本香織

入学試験

◎一般入試（70名）

○一般方式（40名）

本学独自の学科・専門試験

〈学科試験〉

- ・国語：100点
- ・外国語^{※1}：100点

+

〈専門試験〉

- ・鉛筆デッサン
- ・数学
- のうち1科目選択：200点

○センター A方式（15名）

大学入試センター試験＋本学独自の専門試験

〈本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目^{※2}〉

- ・国語・外国語^{※3}・数学のうち1科目選択：100点
- ・選択科目：100点

+

〈専門試験〉

- ・鉛筆デッサン
- ・数学
- のうち1科目選択：200点

○センター B方式（15名）

大学入試センター試験のみ

〈本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目^{※2}〉

- ・外国語^{※3}：100点
- ・国語または数学Ⅰ・数学A
または数学Ⅱ・数学B：100点
- ・選択科目：100点

※1「英語」「フランス語」から選択。「フランス語」を選択する場合は、大学入試センター試験で受験。

※2 本学が指定する大学入試センター試験の教科・科目の詳細は武蔵野美術大学ホームページへ。

※3「英語」「フランス語」「ドイツ語」から選択。

◎公募制推薦入試（10名）

○自己推薦方式

（学校長推薦不要／評定平均値指定なし）

自己推薦調書による第一次審査と表現力テスト、グループ面接による第二次審査で、建築学科で学ぼうとする関心の高さ、情熱、資質を見いだすことを主眼として選抜します。出願に先立って希望者には「事前相談」と「事前面談」を実施します。

○出願可能年齢

2015年4月1日時点で満28歳以下の者

○出願期間

2014（平成26）年10月22日（水）から

10月31日（金）まで

（郵送受付・消印有効）

大学院

（造形研究科修士課程デザイン専攻建築コース）

○選考方法

- ・小論文（英語含む）
- ・プレゼンテーション
- ・面接

○提出作品

1. 近作1点

プレゼンテーションで使用する模型・パネル・デジタルメディア^{※4}を任意の一つ以上選択

2. ポートフォリオ（近作3点以上）または論文

※4 ファイル形式は、jpg、pdf、ppt、動画はmovとする。

提出方法は事前に確認のこと（arc@musabi.ac.jp）

お問い合わせ

武蔵野美術大学：http://www.musabi.ac.jp

広報入学センター：042-342-6995

（9:00～16:30／月～土曜）

http://www.arc.musabi.ac.jp